

平成 26 年 度

旭丘中 学校便り

第 4 号

練馬区立旭丘中学校：発行 7月

「道徳授業地区公開講座」で印象に残ったこと

校長 山谷 安雄

6月14日（土）3校時に道徳の授業を公開しました。その後、保護者・地域の方と本校職員で東京都教育委員会の指導主事笠原先生からお話を伺いました。特に、印象に残ったのは、「心の東京革命」についてです。

東京都教育委員会が提案しているものです。心の東京革命のいくつかの項目の中に子供達に教え伝えていくべき社会の基本的な「心の東京ルール～7つの呼びかけ」があります。【①毎日きちんとあいさつをさせよう ②他人の子供でも叱ろう ③子供に手伝いをさせよう ④ねだる子供にがまんをさせよう ⑤先人や目上の人を敬う心をそだてよう ⑥体験の中で子供をきたえよう ⑦子供にその日のことを話させよう】昭和の時代に育った私は、親から言われていたことそのものです。①から⑦まで、勉強をしなさい以上に強く言われました。このようなことが言われる裏には、今の子供達は、それらができていないということなのでしょう。学校でも、同じようなことを担任の先生が中心になって話しています。

また、別の項目の中に「他人や学校の先生が叱ってくれたら感謝の気持ちをもとう」があります。私自身は、隣近所の子供達までは、声をかけることができますが、町内会の子供という自信がありません。どんな子かわからないからです。自分が生まれ育った地域だと、あそこの子は、誰々の息子だとか娘だとか孫だとか親の代からの知り合いだったりします。自然と声をかけやすいのは事実です。本校の保護者の中には、旭丘中を卒業された方が、比較的多くいます。自分の世代の前後5年間ぐらいだと小学生や中学生のころ何らかの記憶があります。そういった知り合いの家庭だと声をかけやすいと思います。しかし、自分の子供が知らない大人に注意されたとします。心のどこかに、素直に受け入れられない自分がいます。しかし、叱ってくれたことに感謝する気持ちがないと、自分の子供に対して、せっかく叱ってくれたことが無駄になるだけでなく、マイナスになってしまいます。子供は、未熟で成長の途中であり間違いを犯すのが当たり前です。それを修正してあげないと本人のためになりません。学校でも同じ気持ちで指導しています。

「地震・雷・火事・親父」という言葉がありました。近所のおじさんは怖い存在でした。子供の頃は、そう思っていました。今思うと地域の子供達をおじさん達が注意して見ていてくれていました。この子がどこの子かと言うのを知っていたのだと思います。叱ったことをわざわざ親に言うこともなく、さりげなく声をかけてくれました。みんなが声をかけていたので、当たり前でした。今は、関わり合いをもつと、どうなるかわからないと思い、関わらないようになってしまいました。それを、心の東京革命では戒めているのだと思います。

《生徒の活動の様子》

○D組移動教室

6月17日～20日まで軽井沢方面の移動教室を行いました。今年は湯ノ丸山登山を計画していましたが、あいにくの天候のためベルデ軽井沢の体育館を使って、4校交流スポーツ大会を行いました。ドッチボールとバスケットボールに全力で取り組みました。



○定期考査Ⅰが終わりました。6/25日～27日、準備は十分だったでしょうか。反省を生かして授業への取り組みを更に良くしていきたいです。

○児童の部活動体験 7月4日(金)の5・6校時を使い、旭丘小学校と小竹小学校の6年生を招いて、部活動体験を行いました。当日は、グランドコンディション不良のため、校庭の部活動はできませんでした。



←演劇部

↑バドミントン部

バレー部

→

バスケットボール部



↑吹奏楽部

○部活動の大会結果

- ・野球部 練馬区総合体育大会 2回戦敗退
- ・サッカー部 練馬区総合体育大会 予選リーグ敗退
- ・バスケットボール部男子 練馬区総合体育大会 1回戦敗退
- ・ソフトテニス部 練馬区総合体育大会団体 12位
- ・バドミントン部 練馬区総合体育大会
 - 男子 団体 準優勝
 - 女子 団体 3位

《これからの行事》

○1年生臨海学校 8月2日(土)～4日(月)下田

今年は、教育委員会の都合で2泊3日です。

○夏季補充学習教室

各教科で、日にちを決めていますので、都合の付く日に参加させてください。

○7/18終業日